



令和3年7月1日現在

総人口	12,526人
男	6,106人
女	6,420人
世帯数	5,373世帯
電話	47-0264
FAX	40-1264

島内公民館

# 動き出せ “島内モデル”

松本市の「地域づくりセンター機能強化」の一環で、島内地区はモデル地区に位置付けられています。今年度から着任した勝家地域づくりセンター長に話を伺いました。

Q..「地域づくりセンター機能強化モデル事業」は、どのような事業ですか？

A..「地域づくりセンター機能強化」と言ってもピンと来ないかもしれませんが、今年度から松本市保健所がスタートし、県松本保健所が担っていた権限が市に移譲され、さまざまな業務が市の考えで決められるようになりました。

イメージ的にはこれと同じで、「地域の実情に合わせて地域で決められることを増やしていこう」というのが目指す姿です。

Q..センター機能強化は組織上のことで、住民には関係ないですか？

A..実は大いに関係があります。これまで各担当課に交付



申請が必要だった交付金等と、モデル地区で地域課題を解決するために自由に使える新たな予算を一括化し、「自治支援交付金」として地域へ配当されています。この予算の使い道は、住民の皆さんが決めていくことになっています。



Q..島内では「自治支援交付金」を活用してどのような取り組みを進めますか？

A..「防災事業」分野と「提案事業」分野に分けてそれぞれ取り組みを進めています。

「防災事業」の分野では、「防災と福祉」を切り口に、既存の町会活動を生かしながら、地区からの支援体制も活用するなかで、将来的にどの町会にも応用できる持続可能な活動の構築を目指しています。現在、モデルとなる町会を募集している最中ですが、いくつかの町会で、水害時の避難支援体制づくりや大規模地震の際の要援護者支援について取り組みを進めようという動きがあります。

「提案事業」分野については、若者や市民活動団体の活動を掘り起こそうと1団体10万円の交付を受けて実施する活動を募集しています。

Q..今後の取り組みへ向けたセンター長の思いをお聞かせください。

A..これまでも各地区では、さまざまな問題や課題に向き合い、解決に向けて議論したり、連携したりしてきました。

これまでの地域活動をさらに進化(深化)させていくためには「住民(自分)で考え・行動し、地域を創る」という「住民自治」がより求められていくと考えています。そのためには、今まで以上に住民の皆さんの参画により、



物事を決めていく場面が増えていくと思います。すし、「お互いにちよつとずつくを出す」ことも大切になってきます。

地域づくりセンターとしても、そうした場づくり、活動づくりを一緒に進めていきたいと考えています。

## コロナと私たちの生活 5

### 住民×活動Ⅱ公民館

昨年4月、緊急事態宣言が全国に発出され、公民館も事業中止を余儀なくされました。そんな中で「発表をしたい、発表を見たい」という強い思いを受けて実施した事業が、「島内文化ふれあいまつり」と「ふれ愛コンサート」です。まずは会場内の飲食提供を止め、入場者の分散を図り、2日間わたって開催し、コンサートでは、音楽文化ホールを利用ルールに沿って、観客の人数制限や座席指定を行い

ました。両事業の開催を支えてくれた住民の力に感謝です。いまは、ワクチン接種も始まりましたが、地域全体で集まる行事は、感染拡大の観点から中止または開催が危ぶまれている状況です。

公民館が目指す「集い・学び・結ぶ」という理念は、人が集うことから活動が始まります。私は、コロナを正しく恐れながら、「集う」ことが改めて大切だと考えています。

今後も、地区の皆さんや関係者の方々のお力添えを賜りますようお願いいたします。

島内公民館長 上條光司

# 狼煙まつりなど計画

平瀬古城会は、平瀬城跡（松本市特別史跡）や地区内の文化財等の歴史遺産を、地域全体の取組みとして整備・保全・活用するために、昨年設立しました。

現在会員は、町会長・町内公民館長・史跡関係者・信州松本藩鉄砲隊員など54名で、「楽しみながら自由に意見を出し合い、積極的かつ主体的に活動する」をコンセプトに、2年目がスタートしました。



昨年、コロナ禍の影響もあり、会全体で取組んだことは平瀬城跡の整備でしたが、初めて登る方も多く、楽しみながらしっかり作業を行いました。また、鳥居火をテーマにした小学校3年生の地域学習授業や、火縄銃について学び・実物に触れる中学校2年生の社会科学体験授業では、関係する会員が講師となりま

た。今年10月9日（土）に、平瀬城跡を主会場に「平瀬城跡狼煙まつり」を開催します。本城などで、狼煙上げ・火縄銃演武・太鼓演舞・慰霊行事を行うため、6月から運営委員会を組織して検討を進めています。



狼煙上げのテスト

実施にあたっては、会場周辺の駐車場やトイレの課題、史跡入口から本城まで上りで30分程度かかる点、会として初めての取組みとなる点等を考慮し、今回の参集・協力範囲は原則会員にする予定です。ただし、島内や地区外の方の関心のある方にも見ていただくよう、当日はライブ中継配信ができるよう調整しています。

他にも、会員向け企画として、平瀬城の名前を付けたどぶろく酒の製造や、タオルなどの染物体験も行います。

皆さんも一緒に活動しませんか。事務局の島内公民館へご連絡ください。

平瀬古城会副会長 赤羽雄次

## わたしたちの活動② 高松町会「いっつわ会」

私たち「いっつわ会」は、高松の地に嫁入りした人を中心に活動しており、前身は若妻会です。

これまで、ご長寿の祝賀会や二十三夜さま、忘年会などの町会行事では、余興として踊りや歌などが披露され、住民を楽しませていました。そこで「いっつわ会」としても何かできないか」との思いで話がまとまり、自分たちで曲や振付を考え、練習を重ねてきました。



4年前から、スコップ三味線、フラダンス、傘踊りなどを披露し、ご覧いただいた方々に喜んでいただきました。ここ2年は、コロナ禍で活動を自粛していますが、早く皆さんに会いたいと思っています。

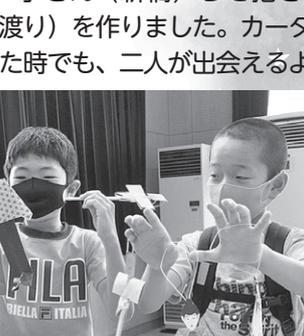
## 松本の伝統七夕人形

### 織姫と彦星の出会いを願って



7月10日、愛ランド島内運営委員会主催で、七夕人形づくり体験会が開催され、親子連れなど90名が参加しました。講師に、松本市立博物館市民学芸員の川船敏子さん（新橋）らを招き、

織姫・彦星とカータリ様（川渡り）を作りました。カータリ様は、雨で天の川が増水した時でも、二人が出会えるように背負って渡ってくれるもので、参加者は学芸員の用意した色紙などを使い、3つの人形を完成させました。



## 灯籠まつり2年続けて中止

島内の夏の風物詩が、新型コロナウイルスの影響により、今年も中止となりました。

主催者による協議では、来場者把握及び感染予防対策の難しさや、「ステージ・子ども」の広場・出店・花火・各町会の交流スペースが揃ってこそ「灯籠まつり」等の意見を踏まえ、開催を断念しました。

宮田芳彦実行委員長は「大切な地域イベントの中止は大変残念。次年度は役員交代による運営面での難しさを乗り越えて楽しく開催できるように、いままでも以上の協力をお願いしたい」と話していました。

地区スポーツ大会のお知らせ  
7月バレー・ソフトボール大会、8月夏季スポーツ大会は、感染及びワクチン接種状況を踏まえて中止することになりました。10月以降の大会は、現在検討しています。

また、島内地区大運動会は、大会長の上條島内公民館長を中心に検討の上、開催の有無等を公民館からご案内しますので、よろしく願います。

島内体育協会会長 宮川幸登  
講座案内やギャラリー展示・活動の様子は、HPからもご覧いただけます。

